



X.

10号である。だからだらとや

ったのである。どの位の人が
読んでいるかなどを考えな
いことが十号続いた要因だ
と思っておる。このままGoだ。

この号が出た後、四月九日
にウィンドウズXPのサ

ポートが終了する。
あとで読み返した
ときにこういうこ
とを書いておくと都

合がいいのであるが、いまだ
にところどころXPのほう
が使い勝手がいいのである。何
がどう、と云われると即答で
きないのであるが、結局慣れ
てるといふか、余計なことを
してくれないというか。

8は駄目です。これは断言
出来る。どう駄目かとい

うと、持ち主の意図しないと
ころで勝手に動き回る点であ
る。スリープをかけておつて
も夜中の三時だか四時だかに

勝手にスリープを解いて
メンテナンスを
始めるなんざ言
語道断なのです。
で、XPや7の
使い勝手に

戻すのんが超面倒くさい。一
度頭にきて、途中で電源を切
ったら再インストールを余儀
なくされましたが、また現状
復帰までに偉い手順がかかる
のです。こんなを嬉々とし
て本場アメリカのウィンドウ
ズユーザーは受け入れている
のかっ。

原

稿を書く仕事の人
で結構ベテランの
先生がぼやいておっ
たげな。「これが万
年筆で、こうホイホ
イと使い勝手を変

えられちゃうんだとしたら、
とても会社としては生き残っ
ておれんだろう」とな。

電

子書籍が流行らないのも
結局はこの「思い通りに
ならなさ」が結構根の深い問
題なのではないかと思えます。
紙の本であれば手に持ってペ
ージをめくればいいわけじゃ
ない。一方――筆者もキンド
ル、タブレットPCと持って
います。右手と左手で使い
勝手が違う、リンクを押し間
違える、残りのバッテリーを
気にしなければならぬ、ア
ップデートする、エトセトラ、
紙の本であれば気を遣わなく
ていい部分というのがあま
りにも多い。その辺の気安さ
は「機械」にや、ないのです。
本来、機械が人間に寄与する
はずだった気楽さの面におい
て、やっぱり紙の本にや勝て
てないと思うんですが、その
辺、どうなんすかねえ。

で、いまだにXPは気楽で
す。原稿打ってDVD見
るだけならこれだけ気楽なO
Sもないんだよなあ。

べう式「アタリ」は、

書肆べうの発行する冗句と与太話のフ
リーペーパーです。出来れば各自でPDF
をダウンロードし、プリンターなどを駆
使してお楽しみください。A4版です。

御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。

Website : <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

水素飴

純國産
山三・京奈
社合製村今

御進物に
世界唯一の機軸筈集

カルミン入
カルミン

一箱
五個装
九十六個入
十個装
三十八個入

花見に行ったか

引 つ越して二年近くなる弊社であるが、ごく近所に

東京でも有数の桜の名所がある。このシーズンだけ観光地化するのである。自治体が桜まつりを催す。マーチングバンドが行進する。それもみな雨で流れた。イッヒツヒツ。雨がないと未明まで酔客が騒いでいるのである。容赦ないのであった。太い道路もあるので声もかき消されると思っ

ラフト・エヴィング商會、デザイナー夫婦である。と書くのをためらわれるのは、クラフト・エヴィングはクラフト・エヴィングだしなあ、という感じだからである。と、こういう個人的な思い入れをぶった斬って云えば懐古的な特有のセンスで本のデザインだ

か

届いた、作品性を壊さない作品展だったと思います！以上の感想があるかというところでもないわけです。いや、つまんなかったわけではない。

続

決してそういうわけではない、がしかし！紙面でどうこうするにはあまりにもいじりどころが少ないのである。ファン垂涎の造形ではあったので。楽しみました。が、面白いネタは拾えませんでした。最終日に行ったのでよく混んでいました。おしよまい！

いて保谷こもればホール、弊著『高校演劇論』の

日大二中二高演劇部・吹奏楽部の合同公演である「瞬き（全二幕）」。これもその、いろいろ取っ払って話すと、



好天に恵まれ、桜も咲き誇り、建物も新しく美しいために特にいじられないよくあるタイプの文学館。

文学フリマに出るヨ

第十八回文学フリマに出店します。書肆べら／フブキナを半分こして頑張ります。

ツイッターの字以内という字数を利用した「ツイッター小説祭」というミニイベントに参加することになりました。会場内でスタンプリートかがあるようです。

〔日時〕 5月5日(月・祝)

〔会場〕 東京流通センター

第二展示場

〔入場〕 無料

あとは特に何も無いよ

どっかに明るい話題は落ちてないか。話題だけでいい。

バックナンバーはこちら

弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイト

<http://sbew.web.fc2.com/atari/>

からご覧いただけます。

といった次第で、今号は以上。

さ

うすると、コラボレーションすること自体が部員の経験になりこそすれ、その

。観客的にはコラボレーションである必要は全くないんだよなあ、とモヤモヤしておる。今回そんなんばっかだ。